

内閣総理大臣 野田 佳彦 殿
外務大臣 玄葉 光一郎 殿
防衛大臣 森本 敏 殿

MV 22 オスプレイ配備と訓練計画撤回に関する要望書

2012年7月20日

2012年6月13日、防衛省はアメリカ海兵隊の大型輸送機、MV 22 オスプレイをアメリカ軍の要請に基づく、沖縄普天間基地及び岩国基地への配備計画を発表した。それによると、7月末から8月にかけて配備が行われようとしています。

MV 22 オスプレイについては、垂直離陸及び水平飛行が可能な大型の軍用輸送機であり、4月にはモロッコで、また6月には同種のCV 22 オスプレイがアメリカ海軍基地で墜落するなどの事故が2ヶ月に2回も発生しています。この機種は開発当初から重大事故が発生し、アメリカでも「未亡人製造機」と揶揄されるほど危険なものであり、一時開発が中止されたとの経緯さえ伝えられています。

「安全性は確保されている」として製造され、運用開始に至ったにも関わらず、先に上げた2つの事故以外にも、アメリカ本土でのデモンストレーション会場でも、怪我人が出るなどの事故も報告されています。

今回の配備について、防衛省からも「事故原因の詳細説明」が求められているにも関わらず、アメリカからは「人為ミスであり、性能の問題では無い。引き続き原因は調査中」との報告だと、報道されています。また、別の報道では「水平飛行に移る際の事故であり、操縦士は2500時間以上のベテラン」とされています。開発途上の事故調査でも、「水平飛行に移る際のエンジン出力不足」が調査した軍関係者から指摘されたとの情報も流れています。

原因がいずれにせよ、オスプレイは危険な機種であり、他機種に比して「安全性は低く」事故が多く起きていることははっきりしています。

また、沖縄の新基地および高江のヘリパットへの配備については、早くから現地で配備計画の詳細を求める声や反対があったにもかかわらず、明確な配備計画が示されないままでした。最近になって、「普天間基地の整備計画」にともなって、急に計画が発表され、現地の反対に遭うや、「岩国基地への先行配備」などが発表されていたものです。

しかし、6月13日に防衛省より発表された、オスプレイ沖縄配備に向けた米海兵隊の環境審査の内容によれば、配備計画による影響は普天間基地周辺に限らず、伊江島や沖縄本島全域に影響が及ぶと共に岩国基地所属の海兵隊機がすでに勝手に行っている「低空飛行ルート」を使った本土にも影響が及ぶ「飛行訓練ルート」が含まれていることがあきらかになっています。

こうした、一連のMV 22 オスプレイの沖縄普天間基地配備に絡む問題点は、私たち国民に具体的に知らされないまま、防衛大臣による「現地要請」が先行し、配備及び訓練が日本国民に明確に説明されないまま、既成事実化されようとしています。

沖縄の普天間基地は世界一危険な軍事基地として、アメリカ軍が認めているなかで、MV 22 という安全性にきわめて疑問があり、沖縄の9割の人々が反対している機種が沖縄や岩国に配備され、日本中を「訓練」のために飛び回することはきわめて危険な行為であります。日本国民には憲法に保障された「平和のうちに生活する権利」があり、「抑止力」を理由にしたMV 22 オスプレイなどの他国軍機の「訓練」などで、日常的に危険にさらされる謂れはありません。

従って、私たちは**日本政府及び防衛省が、アメリカ海兵隊の「MV 22 オスプレイ配備計画及びそれに基づく訓練計画」等を直ちに撤回するようアメリカ政府に求めることを要望**します。

以下（次ページ）要望書提出に賛同した長野県内の団体（7月20日現在まで・順不同）

信州沖縄塾
長野ピースサイクル実行委員会
長野民衆運動研究所
東信医療生活協同組合
上田市北東地域憲法 9 条を守る会
憲法九条を守る西部の会
私教連上田西高校教職員組合
9 条の会・真田
ピースウォーク上田
上田小県民主商工会
上小地区労働組合連合
上小地域「九条の会」連絡会
JMIU マグネエース支部
長野県退職教職員の会
川西九条の会
JMIU 地域支部
JMIU 丸子警報器支部
上小地区平和委員会
原水爆禁止上小地区協議会
憲法 9 条を守る上田市東部の会
上田小県近現代史研究会
ヤマンバの会
労働組合 L C C ながの
長野県「国民保護」訓練を問う市民の会
平和のための信州・戦争展長野県連絡センター
平和のための信州・戦争展中信地区実行委員会
松本強制労働調査団
長野県憲法擁護連合（県護憲連合）
JMIU カネテック支部
憲法 9 条を守る丸子の会
長野県高等学校教職員組合上小支部

要望書提出者連絡先

090-2647-1232（信州沖縄塾・大村）